山陽新聞 2017年（平成29年）2月19日（日）

福山平成大認知症カフェ愛称
考案の川上君（御幸小1年）に感謝状
「みゆきよりみちかふぇ」

門井会長（右）から感謝状を受け取る川上君

福山平成大（福山市御幸町上岩成）の福祉健康学部福祉学科や御幸学区自治会連合会などでつくる「平大認知症カフェ連絡協議会」は18日、同大の認知症カフェの愛称を考えた御幸小（御幸町森脇）1年川上聡太君（7）に感謝状を贈った。

愛称は「みゆきよりみちかふぇ」。同協議会は2016年11月ごろ、これまでの「平大認知症カフェ」を地域住民に親しみやすい名前にと、同校に児童の協力を依頼した。1～6年227人から437点の応募があり、気軽に寄ってもらえそうな川上君の「よりみちかふぇ」を選考。これに、多くの作品で使われていた「みゆき」を付けた。

カフェ開催日のこの日、同大講義室で同連合会の門井善敬会長が川上君に賞状と副賞を手渡した。

川上君は「みんなに寄ってほしいと思ってこの名前にした。選ばれてうれしい」と話し、門井会長は「これからは地域での支え合いが大事になる。気軽に足を運べる場所としてカフェの存在を多くの人に啓発していきたい」としている。

（高橋由大）